

計画の実現・推進のための方策

プロジェクトチーム・街づくり協議会によるまちづくりの推進

- これまで検討してきた「プロジェクトチーム」と、地域ごとの「街づくり協議会」が担い手となり、**町民が主体**となったまちづくりを推進します。
- 各プロジェクトチームや街づくり協議会に加え、町民や企業、行政等も参加する、年に1回程度の**合同会議（プラットフォーム）**を開催します。
- 「対話の場」による意見交換を行い、各チームや協議会における取り組みの成果や課題の共有のほか、進捗状況やまちの状況、社会経済状況に柔軟に対応しながら、さらなる取り組みの展開や見直しを図り、まちづくりを進めていきます。



できることから始めてゆっくり育てていこう！

- プロジェクトチームや街づくり協議会による取り組みは、まずは**できることから始め、まちづくりを楽しみながら進めましょう。**
- ゆくゆくはプロジェクトチームや街づくり協議会が、それぞれの“ツボ”や地域を運営する「地域運営組織」として、ソフトとハードをつなぐ役割を担い、まちづくり会社等の組織化や町と連携した「公民連携組織」等の持続的な組織運営にステップアップしていくことを目指します。

活動への支援

- 町は活動に対して運営面、財政面等において支援し、協働によってまちづくりを推進します。

総合的な運営支援

財源確保に向けた支援

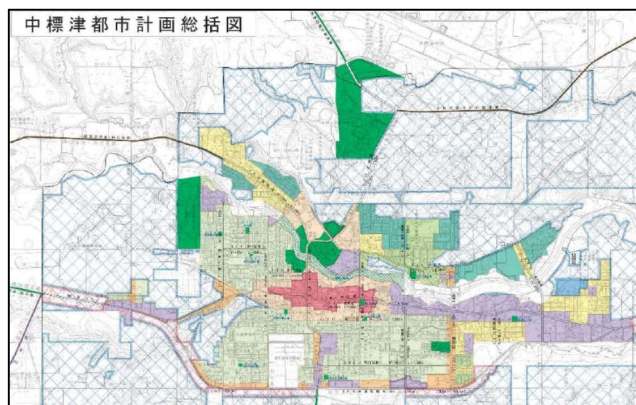
ファシリテーターやアドバイザーの派遣

庁内の横断的な体制

中標津町用途地域の一部見直しを予定しています

今回策定しました、第2期中標津町都市計画マスタープラン並びに中標津都市計画区域の整備・開発及び保全方針（北海道決定）において、人口減少・少子高齢化社会を見据えたコンパクトで機能的・効率的な市街地の形成を進めるため、中標津町の土地利用の方針の基本的な考え方に基づき、都市計画用途地域の見直しを検討しています。

今回の見直しは市街地内の白地地域の有効活用や、市街地拡大抑制のための用途地域縮小など限定的な変更を予定しています。



現在、令和4年秋の告示に向けて原案を町民意見募集（パブリックコメント）を実施中です。

情報は都市マス通信のほか、町のホームページ・Facebook ページでも発信しています！



町ホームページ



Facebook ページ

問い合わせ：中標津町 建設水道部 都市住宅課 街づくり推進係 TEL：0153-73-3111（内線 353）

都市マス
通信

環境首都
なかしべつ

2022.3
第19号

発行：中標津町 建設水道部
都市住宅課 街づくり推進係

第2期中標津町都市計画マスタープランを策定しました

- 2019年に始まったコロナ禍により、これまでの生活が一変し、対話を重視しながら進めてきた都市マス策定もオンライン会議の開催など様々な工夫をしながら2021年3月に「第2期中標津町都市計画マスタープラン」が完成しました。本計画策定にご協力いただきました、多くの町民の皆さんに改めてお礼申し上げます。
- 今回新たに協働で取り組む短中期構想として“私たちのまちの「ツボマップ」”を作成し、町民の皆様と一緒に考えたアイデアの実現化に向けて取り組んでまいります。
- 新しい都市計画マスタープランにつきましては広報なかしべつ2021年4月号に概要版を全戸配布しておりますが、コロナ禍により活動が思うように実施できなかった経緯もありましたので、今年度の報告といたしまして再度皆様にお知らせいたします。

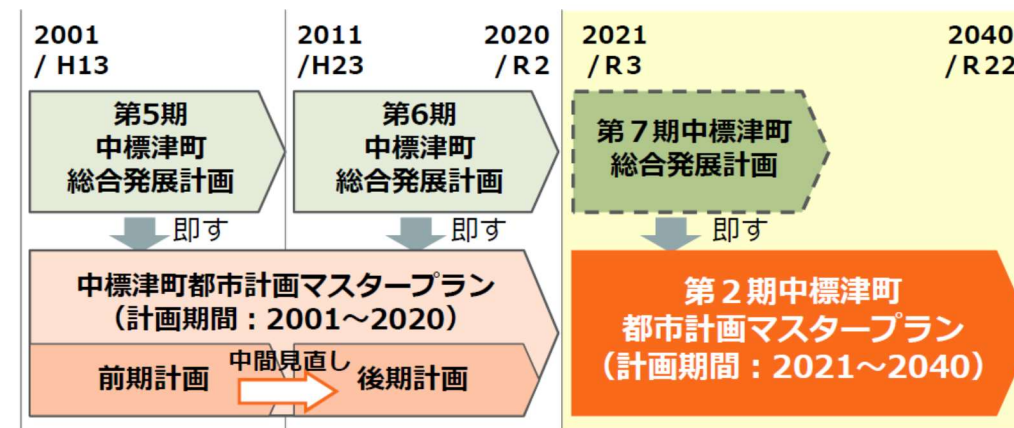


第2期中標津町都市計画マスタープラン



都市計画マスタープランとは…

- 都市計画法の改正（平成4年）に伴い創設された制度で、都市計画区域を持つ自治体の責務となりました。中標津町では、第1期計画（2001年策定2011年中間見直し）の計画期間満了に伴い、第2期（2021年～2040年）までの計画を策定しました。
- 都市計画マスタープラン（都市マス）は概ね20年後を見据えた計画で、2021年秋に策定した町の最上位計画「第7期中標津町総合計画」と連動しながら推進します。



町民の皆さんの参加と「対話」により計画をつくりました

この計画は3ヵ年（2018年～2020年）をかけて検討しました。町民と役場職員で構成する策定委員会のほか、町民同士の対話の場やアンケート調査、町民インタビュー、フォーラム、プロジェクトチーム会議など多くの町民の皆さんが参加し対話をする場で意見交換を重ねて計画をつくりました。

平成30年度（2018年度）

計画の検証・まちの課題

- 策定委員会：2回
- 庁内推進会議：3回

令和元年度（2019年度）

都市づくり構想

- 策定委員会：3回
- 庁内推進会議：3回
- 対話の場：2回
- アンケート調査
- インタビュー
- フォーラム

令和2年度（2020年度）

プロジェクトチーム・実現化方策

- 策定委員会：2回
- 庁内推進会議：2回
- プロジェクトチーム会議：3回

令和3年度（2021年度）

協働により計画の実行

- 庁内推進会議
- 街づくり協議会
- プロジェクトチーム
- 町民、企業、団体

対話とは

相手の意見を尊重し、相手の立場に立って、新たな解決策を導く話し合いのことです。

将来都市像と基本目標

●将来都市像

環境首都 なかしべつ

中標津町では、自然や歴史といった風土を大切にするなかで、交流を楽しみ、共生を重んじ、自律を追求し、人間を中心に据えた都市を実現するための将来の都市像を『環境首都 なかしべつ』と掲げ、世界に誇れる取り組みを継続していく、強い意志を内外に示し、都市づくりに取り組みます。

●基本目標

- ①都市の骨格を形成してきた自然や歴史を長期的に大切にします。
- ②総合計画と連動しながら、生活実感に基づいた実効性の高い施策を展開する短中期的な都市づくりに取り組みます。
- ③協働による都市づくりを進めます。

向き合うべき課題

(1)人口減少・高齢化社会に対応し、持続的な都市経営を考慮した戦略的なまちづくりの取り組み

①豊かで安心した暮らしを実現する取り組みが必要

多様化するライフスタイルやワークスタイルに対応し、豊かな暮らしを中標津で実現できる環境を整え、安心して暮らしていけるように、医療・福祉・子育て・教育・産業・公共交通などの施策について総合的に取り組むことが必要です。

②次代を見据えながら中標津町が一丸となって地域産業を支える方策が必要

働き手の減少が進む中、生産性の向上を図るとともに次代を担う子供たちへの教育を見つめ、産業の担い手の確保や若い世代の雇用の場づくりに取り組み、まちが一丸となって地域産業の推進を図ることが必要です。

③コンパクトなまちづくりを推進する方策が必要

これまでの人口増加によって都市が広がり、道路・下水道・公園など都市基盤施設を整備してきました。しかしこれからの人口減少により都市を運営する財源も縮小してきます。都市施設の老朽化が進むと維持管理や更新などコストが増大します。限りある貴重な財源を医療・福祉・公共交通など生活の質の向上と子育て・教育など未来への投資に向け、今ある都市施設の有効活用や、今後増加が予想される空き家の活用など都市のストックを活用したコンパクトなまちづくりが必要です。

(2)長期を見据えつつ、短期的な取り組みを重ねながら進めていくまちづくり

社会経済状況や技術開発の動向が激しく変化しており、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行しているなか、将来を見通すことが難しくなっています。社会状況や技術開発の動向、まちが抱える課題に柔軟に対応しながら短期的な取り組みを展開し、その取り組み結果を長期ビジョンに反映していくなど次のまちづくりに進めていくことが必要です。

(3)協働のまちづくり

人口減少社会において、厳しい財政状況にある行政だけでまちづくりを進めることは限界があります。町民・企業・団体・行政の協働によって様々な課題に対応し、人と人との繋がりを強化することで地域全体の活力を高め、自律したまちづくりを実現していくことが必要です。

短中期構想

短中期構想「私たちのまちの“ツボマップ”」は身近でまちの大切な場所（＝まちの“ツボ”）を町民、企業、団体、行政の協働により魅力的な場所・暮らしやすいまちに変えていこうとする作戦マップです。

第7期中標津町総合計画と連動しながら取り組みを実践・検証し、状況の変化に合わせて柔軟に計画を見直しながら進めていきます。



まちの“ツボ”って…？

私たちの身体にある“ツボ”と同じように、そこを刺激するとまちがイキイキするような場所のことを指しています。

私たちのまちのツボマップ



ツボ1「まちなか」

- ①しるべっと広場など既存施設を活用した賑わい・交流の創出
- ②市街地内の回遊性を高める歩行者ネットワークの整備
- ③魅力的なまちなかづくりに向けた、遊休不動産の活用や起業・出店支援
- ④安心・便利なまちなか暮らしの実現

ツボ2「身近な地域の拠点」

- ①子どもから高齢者まで一緒に集える交流・防災の拠点づくり
- ②まちづくり活動をやりたい人をサポートできる体制づくり

ツボ3「公園・公共施設」

- ①既存の公園を活用し、町内外から人を呼ぶ交流拠点づくり
- ②身近な公園緑地の活用策の検討

ツボ4「歴史文化遺産（伝成館など）」

- ①伝成館周辺の保存・活用
- ②景観まちづくり活動の実践

ツボ5「公共交通」

- ①関心は高いが使われない公共交通の状況を変える
- ②交通センターの交通結節機能の強化と施設の有効活用

ツボ6「広域交流拠点（中標津空港など）」

- ①中標津空港をまちの生命線として維持・活性化
- ②中標津町の魅力を伝える発信機能・案内機能の強化

ツボ7「計根別」

- ①魅力ある暮らしやすい環境整備
- ②街づくり協議会による地域一体となったまちづくり・ひとづくり